

◆◆◆師走◆◆◆

■今日から師走。

例によって今日は「師走」という言葉の話題です。まずは「師走」の由来から。

しわすの漢字「師走」は当て字。

師走の語源で最も有名な説は、師匠の僧がお経をあげるために、東西を馳せる月と解釈する「師馳す（しはす）」がある。

この説は、平安末期の『色葉字類抄』に「しはす」の注として説明されている。

その他、師走の語源には「年が果てる」意味の「年果つ（としはつ）」が変化したとする説。「四季の果てる月」を意味する「四極（しはつ）」からとする説。

「一年の最後になし終える」意味の「為果つ（しはつ）」からとする説などがある。

1 2 月はお坊さんがお経をあげるのに忙しく走り回るから、
ということの他にもいろいろな説があるものですね。

ここでの「師」は僧侶をさしているわけですが、
私たち教師としては、この「師」は教師の「師」でしょう、
と言いたくなるところ。

私は1 2月に限らずいつでもバタバタしていましたが、
とりわけ年末はよく走っていた記憶があります。

そんな忙しい中にも子どもたちに日々しっかり向き合われている南風の先生方。
本当に素晴らしいです。



■師走の他にも、1 2月には次のようなたくさんさんの異名があります。

▼季冬（きとう）→冬の最後の月。

▼建丑月（けんちゅうげつ）→北斗七星を基準とした呼び名。

▼弟月（おとづき・おとうづき・おととづき）

→「弟」は「末」を意味することから、1年の末の月。

▼春待月（はるまちづき）→春を心待ちにする月。

▼暮来月・暮古月（くれこづき）、暮歳（ぼさい）→年の暮れ。

▼雪月（ゆきづき）、氷月（ひょうげつ）→雪や氷が見られる月。

▼三冬月（さんとうづき）→冬の三番目の月。

▼茶月（さげつ）→茶道と深い関係にある仏教の開祖であるブツダが悟りを開いた月。

▼天皓（てんこう）→空が明るく清らかであること。

▼歳極（さいきょく・としはつ・さいしゅう）、年果つる月（としはつるつき）、年果（ねんか）、
限月（かぎりのつき）、極月（ごくげつ）、成終月（なりはつるつき）→年の終わり。

▼四極（しきょく・しはつ）→四季の終わりの月。

さあ、1 2月。

心配していた感染症も広がっていません。

今朝も校長室まで子どもたちの笑顔と健康な声が聞こえてきます。